

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490300015		
法人名	有限会社メーサーサービス		
事業所名	グループホーム 楽家生		
所在地	〒513-0816三重県鈴鹿市南玉垣町5470番地		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2490300015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2490300015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和5年9月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・5類に分類されたとはいえ新型コロナウイルス感染症などの蔓延をどう防ごうかが大きな課題となっており、職員・利用者をはじめ様々な感染予防対策に力を入れています。正看護師を配置しており、介護職員との連携のもと、健康状態の把握や利用者の重度化への対応を行っています。看取りの支援に力を入れた取り組みを行っています。最期まで住み慣れた場所と顔なじみの職員・仲間の方に見守られ、心安らかにいてほしいと願っています。朝にはカーテンを開け陽の光を取り入れ、湿度や温度調整の整備や周りの声が部屋に入るようドアを開けたり、好きだった音楽をかけたりなど、住空間の整備に努めています。朝のあいさつや日中の話しかけ、夜のおやすみなど、職員からの働きかけにも配慮した取り組みを行っています。また、家族の精神的なフォローにも力を入れています。今年は地域行事も再開されるなど、コロナ禍前の状態に元に戻りつつあります。事業所としても季節を感じる外出や地域の方・ボランティアの方との交流を大切にしていきたいと考えております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

鈴鹿市中央部に位置し、23号線より100mの交通の便の良い場所にある2階建ての事業所で1階に居宅介護事業所とデイサービスがあり、2階がグループホームである。職員は、4つの経営理念を重視しながら地域に根ざし、利用者一人ひとりの思いや誇りを尊重して事業所運営をしており、利用者・家族との信頼関係があるグループホームである。24時間対応の協力医と事業所の看護師がいて、利用者や家族は、健康管理や医療面で安心である。利用者はテーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、散歩、作品作り、レクリエーション等自分のペースで生活をしている。管理者・職員は自治会・民生委員・医師・看護師・鈴鹿亀山地区広域連合、地域包括支援センター等の関係者や利用者家族の理解と協力により、利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して生活出来る事業所を目指して支援をしている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示しており、理念が浸透するよう心掛けている。工作中や会議での運営方針などに関わる話のときに、理念についての考えを職員に伝えている。	理念がエレベーターホールに掲示されている。管理者、職員は理念を共有しながら、利用者に寄り添い、温かで家庭的な事業所を目指して支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の年間行事である夏祭りや運動会に参加させて貰っていたが、コロナ禍により地域の行事も中止となっていた。今年は夏祭りや運動会など開催されるとのことであり、参加する予定である。	自治会に加入している。コロナ禍前は地域の行事やイベントに参加していた。散歩時に地域の方と挨拶を交わしている。8月に地域の夏祭りに参加した。秋には運動会に参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域貢献など全般的な交流は持ていなかったが、運営推進会議を通じ副自治会長や民生委員から地域の情報などをいただいていた。今後地域の行事に参加させていただくことで、何らかの貢献を行っていきたく考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、施設内の取り組みなどを報告し、地域の出来事などを聞き意見交換などを行っている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。コロナ禍で3回開催出来ず書面により意見や要望を聞いた。3月、5月、7月は自治会副会長、民生委員、包括支援センター、利用者代表、家族代表の参加で開催し事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が生じた時など必要時に相談し、アドバイスをいただいている。コロナ禍以前は毎月1回市の相談員さんに来ていただいていたが、できる限り早く再開し、多くの関係者と情報を交換していきたく	鈴鹿亀山地区広域連合に出向いたり電話連絡で情報交換を行っている。市の介護サービス相談員の来訪を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアに心掛けている。言葉による拘束にも注意し研修や申し送り等で伝えている。服薬が必要な利用者にとっても、主治医や家族と相談しながら了承を得て対策を立てている。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。職員研修を実施し身体拘束のない支援に取り組んでいる。言葉による拘束についても話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通じ対応している。また利用者の身体に異常があった際は、職員間で周知を行い注意や防止に努めると共に、職員の言動や行動にアンテナをはり、利用者の言動にも耳を傾けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方もいるが、知識としては取り入れているがあまり学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面契約については所長から詳しく説明を行い、理解を促している。何かあればいつでも連絡していただくよう日頃から伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入り口に意見箱を設置している。家族の面会時には管理者などが顔を合わせ、意見や要望を聞けるように心がけている。また担当者から月1回お手紙で状況報告している。	家族の面会時に意見や要望を聞いている。毎月1回、担当職員が手書きの利用者の状況報告を家族に郵送している。家族からの意見や要望を事業所運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の仕事の中や会議で意見を取り入れ、良い意見はどんどん運営に反映させている。今後も職員の意見や提案を受け入れていきたい。	それぞれの会議や日常の会話で職員の意見や提案を聞いて事業所運営に活かしている。管理者は気軽に意見が言える環境づくりを心掛けている。職員の提案で、朝食はパン食であったが、日曜日の朝食だけ和食に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与などがあり、管理者と職員とで面談の機会を設け、現場の意見を聞いている。また、代表者自ら個別の相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加している職員もあり、必要に応じて外部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつ研修会等を通じ、他事業所職員と交流が持てるようにはなっている。コロナ禍前までは小規模事業所が集まり年1回の作品展などを開催していたが、今後そのような場が開催されれば参加したい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、環境の変化に配慮して、利用者の不安や困りごと、要望等に耳を傾けながら、安心して話せるよう心掛けている。また必要な情報は職員間で共有するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設見学をしていただき家族が困っている事や不安に思っている事、要望等に耳を傾けながら、安心して話していただけた環境づくりやより良い関係が築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問や見学にて利用者、家族との面談の中での確にニーズを捉え、入居による環境の変化による不安や戸惑いなどを考慮し、支援に当たれるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉の表出が難しい方についても、しぐさや表情など非言語的コミュニケーションで気持ちを読み取るよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との関係が維持できるよう心掛けると共に、できる限り隔たりのない支援に繋げるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年度などコロナ禍のため面会の機会が減り、交流が難しくなっていた時期もあった。現在は少し制限はあるものの、対面による面会も再開している。	コロナ禍で馴染みの人との交流が出来なかった。子どもと手紙で交流している利用者がある。携帯電話を使用している利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士が声を掛け合ったりすることもある。レクや行事などで、お互いが関わり合いを持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなられてからも家族から相談されるケースもある。また他施設へ入居が決まった利用者についても電話相談など、必要な支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴も考慮し表情から思いや意向を汲み取り本人らしさが出るよう支援し職員間で情報を共有している。	利用者に寄り添い日常の会話で思いや意向を把握するように心掛けている。把握が困難な利用者は行動や仕草、表情から意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話で聞き取ったり、利用者の好きなことや習慣を家族様から聞き、取りいれている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼食後に昼寝していただいたり、少しゆったりした時間を過ごしていただくこともある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを行い快適に過ごせる支援が行えるよう心掛けている。個別記録や申し送りノート、業務日誌等の日常の記録やまた利用者・家族の意見、看護師の意見、医師の指導等を参考に毎月職員会議を行っている。	毎月の職員会議内でケース会議を行い介護職員や看護師から意見を貰う他、家族、医師の意見も参考にしている。また毎月、計画作成担当者が個々の利用者のモニタリングを行っている。長期目標は1年、短期目標は3か月で介護計画を作成し、利用者の状態に変化が見られた場合は随時計画書の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートに記録を残すと共に、会議等を通じて介護計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態や活動の様子など、月1回写真を送付し手紙にして家族に様子を伝え、ご意見をいただくこともある。また会議等で職員間で支援方法について話し合っている。通院で家族が病院受診できない場合は、職員が受診援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域の夏祭りや運動会に参加の予定である。コロナ禍前は参加し、心身の力を発揮できる踊りや競技を楽しんでいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院が月2回の訪問診療に来て、適切な医療が受けられるような体制ができている。	利用者全員が協力医を主治医としており、月2回の訪問診療がある。24時間対応の協力医と事業所に看護師がおり、利用者、家族は安心である。他科への受診は家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が配置されており、気づきがあった際は報告や相談をし、適切な医療が受けられるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	先ず看護師や主治医に相談し、家族からの要望も聞きつつ対応している。入退院時も職員等が病院関係者と直接話を行い、連携を図りながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の代表が、利用者の終末期のあり方についての考えを職員に伝え、看取り介護までするように取り組んでいる。病院での延命治療を望まれない方に対しては、事業所でできる限りのことを尽くしている。尊厳を保つための支援を心掛けている。	契約時には終末期に入った場合の家族の対応について考えてもらう様に話をしている。その後重度化した場合は、医師、看護師、家族での話し合いの場を持ち、看取り希望の場合は家族の意向に沿った支援(「重度化した場合における対応及び看取りに関する同意書」について説明し同意を得る)を提供する。職員には定期的に看取りについての研修を実施している。7月に1名看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について意見交換を行っており、実践力を身につけている。今までのところ大きなトラブルはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の災害を想定した総合避難訓練を年2回行っている。消防職員からのアドバイスや、運営推進会議にて地域の代表者にもアドバイスを頂き、報告を行っている。災害時に使用できる自家発電機も設置している。	年に2回、夜間火災を想定した訓練を実施した。火災通報装置の誤作動が起きたので消防署職員から停止の仕方について指導を受けた。1週間分の食料と水の備蓄がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し気持ちよく過ごせるように心がけている。また、トイレは居室ごとに個々にあり、気兼ねなく使用できるが、職員が介助するときはカーテンを閉めるようにしている。部屋に入るときも声掛けをしている。	各居室にカーテン付きトイレが設置されておりプライバシーが守られている。呼称はさん付けで呼んでいる。誘導時の声掛けや言葉遣いに気を付け、一人ひとりのプライバシーを尊重する支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話等の中で意思表示や自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕草や行動を見極め、個々に合った生活を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、美容師による散髪に来て頂いている。散髪後は「さっぱりした」や「良くなった」と嬉しそうな様子を見せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューを提供したりして楽しんで頂いている。また利用者の出来る範囲でテーブル拭きや下膳などお手伝いして頂いている。	昼食と夕食は業者委託の食材を湯煎して盛り付けをしている。ご飯と汁物は職員が作っている。朝食はパン食で、日曜日だけ夜勤の職員がご飯と汁物、副菜を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記入しており、申し送りなどで状態把握し補助食を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、全員必ず行うように支援している。義歯を使用している人は、毎晩ポリドントを使用し、清潔保持に努めている。舌ブラシも必要な方には取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレを設置し、気兼ねなくゆったりと排泄できる環境を整えている。職員は一人ひとりの排泄リズムに合わせ、トイレ誘導、トイレ介助を行っている。	布パンツ2名、リハビリパンツ6名(内1名が夜間のみオムツ)、オムツ使用1名、排泄記録表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導により排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(バナナ・ヨーグルト・ココアなど摂取)や体操にて体を動かしていただくよう努めている。センナ茶を飲んでいただいたこともあった。また排便状況に応じて、協力医院に相談し下剤を処方している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、希望者にはその都度入ってもらっている。体調次第で入浴日の変更する場合もある。季節のゆず湯、しょうぶ湯など、色や香りを楽しむ機会も設けている。	週に2回~3回、午前中に入浴をしている。シャワー浴と足湯の利用者が1名いる。入浴剤を使用している。しょうぶ湯、柚子湯で季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい方は昼寝をしていただく。ただ長時間昼寝をすることにより、昼夜逆転のおそれがある方については、状況に応じ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、職員が確認できる場所に配置してある。服薬は、誤薬や飲み忘れがないよう管理したりダブルチェック体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみに触れられるよう支援している。個々の好みの動画をご覧いただいたり、家事(洗濯物干し、洗濯たたみ)等、能力に応じ参加してもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会が減っている。事業所の前に地蔵や大きな松の木があり、日光浴・散歩には絶好の場所である。コロナ禍が収まれば普段行けないような場所は、家族に協力して貰って連れて行ってもらえるように検討中である。	事業所の向かいにある地蔵大マツに散歩にでかけている。ベランダ、玄関先のベンチで日光浴をしている。地域の夏祭りに参加した。	ドライブを兼ねた季節の花見や大型店舗のフードコート、回転ずし、レストラン等での外食を企画し、実施する事を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない方については事業所で管理している。お金が気になる方についてはその都度傾聴しながら対応したり、少額をご自身で管理していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望される方はかけたり、状況に応じて対応している。毎年年賀状を作成し、家族などにお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を大切に環境整備（湿度・温度設定含む）を心掛けている。利用者の心理・身体機能の向上も兼ねて、季節を感じられるような作品を利用者と職員で作成し展示している。共用スペースに貼ると、皆さんが喜んで見ていただいている。	リビング兼食堂は広くて明るくテレビ2台と大きいソファがあり、ゆっくり寛げる空間である。利用者と職員で作成した立体感のある季節を感じさせる作品が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し、いつでもくつろげるよう、ペースを確保している。懐かしい写真集や本に簡単なゲームなども置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋約10畳あり、ゆったりとテレビ、タンス、冷蔵庫が置けるつくりになっている。テレビ好きな方は、居室で楽しまれている。以前使用していた思い出の物や好みの物を持って来て、居心地よく過ごせる住環境作りに努めている。	クーラー、ベッド、洗面台、トイレが設置されている。使い慣れたタンス、衣装ケース、机、イス、テレビが置いてある。毛糸アート、写真などが壁に飾ってあり居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、表札や飾りを掲げている。また、各居室にトイレと洗面台が設置しており、個々ができることをして、少しでも自立した生活が送れるように生活動線を確認し工夫している。		